

EXEO REPORT

2017年度(2018年3月期)第2四半期

証券コード:1951

EXEO

株式会社 協和エクシオ



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社グループの2017年度(2018年3月期)第2四半期連結累計業績の概要についてご報告申し上げます。

2017年度(2018年3月期)の第2四半期 連結累計業績の概要

情報通信分野におきましては、光アクセス等の固定通信関連工事は減少傾向が続くものの、「光コラボレーションモデル」など付加価値をつけた新たなサービスの普及が期待されております。移動通信関連工事はLTE-Advancedが本格化するなど、スマートフォンやタブレット等スマートデバイスの利活用拡大によるモバイルトラフィックの増加に伴いネットワーク環境の増強・整備等が進みました。

また、公共・民間分野におきましては、国や行政が主導する国土強靱化、地方創生計画や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催等により、自治体等の各種投資や再開発事業が積極的に展開されるとともに、本格的なIoT

時代の到来に伴う情報ネットワークのセキュリティ強化やクラウドサービスの拡大など、ICT投資も益々活況を呈してまいりました。

このような事業環境において、当社グループは中期経営計画(2016~2020年度)の中期ビジョン「グループ総力を結集し、トータルソリューションで新たな成長ステージへ」のもと、コア事業である通信インフラ構築関連事業においては、徹底した効率化による収益力強化を図るとともに、グループ一体で既存の技術とサービスを融合させシステムソリューション事業を第2の柱へ育成するなどの事業ポートフォリオの再構築を推進してまいりました。



事業拡大への取り組みとして、「新エネルギー」「ジオソリューション」「クラウド・セキュリティ」「グローバル」の各分野で積極的な営業活動を推進する中で、BluetoothSIGプレスイベントにて屋内測位・センサーネットワークにおける「EXBeacon（エックスビーコン）」を活用した先進事例を発表しました。

また、2017年10月よりセカンドサイト株式会社とAIやビッグデータ分野におけるアナリティクス・ソリューションにおいて協業を開始しました。これは、当社の持つBPM (Business Process Management) を主軸とした業務変革ソリューションなど同社の持つAIサービス「SkyFox」を組み合わせることにより、ビッグデータを経営効率向上に直結させる統計モデル・AIなどを構築するものであり、お客様に対してさらに付加価値の高いソリューションを提案してまいります。

なお、生産性向上を目的に神奈川県南西部エリアの技術センターを集約し、「湘南総合技術センター（神奈川県藤沢市）」を建設しました。同センターは、首都圏での大規模災害発生時には、BCP(事業継続計画)の拠点としての役割も担います。

加えて、2017年10月にアラブ首長国連邦・アブダビで開催された「第44回技能五輪国際大会」の情報ネットワーク施工職種において当社の清水義晃選手が金メダルを獲得しました。今後も優秀な技術者の育成を図り、高い施工技術で社会に貢献してまいります。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、受注高は1,611億7千5百万円（前年同期比104.2%）、売上高は1,249億6千4百万円（前年同期比107.5%）となりました。損益面につきましては、営業利益は89億1百万円（前年同期比148.6%）、経常利益は97億6百万円（前年同期比168.0%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は63億6千4百万円（前年同期比262.9%）となりました。

今後も、計画達成へ向けてグループ社員一同努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年11月

代表取締役社長 **小園 文典**

決算ハイライト

詳しい財務情報は当社IRサイトをご覧ください。

<http://www.exeo.co.jp/ir/index.html>

協和エクシオ IR

検索

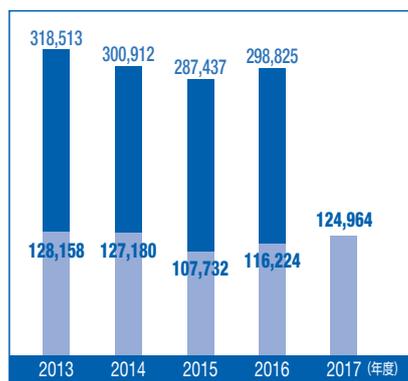
2017年度(2018年3月期) 第2四半期連結累計業績

受注高	1,611 億円	前年同期比	104%
売上高	1,249 億円	前年同期比	108%
営業利益	89 億円	前年同期比	149%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	63 億円	前年同期比	263%

売上高

124,964 百万円

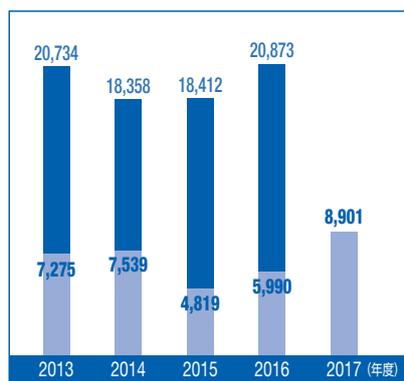
■ 通期
■ 第2四半期累計



営業利益

8,901 百万円

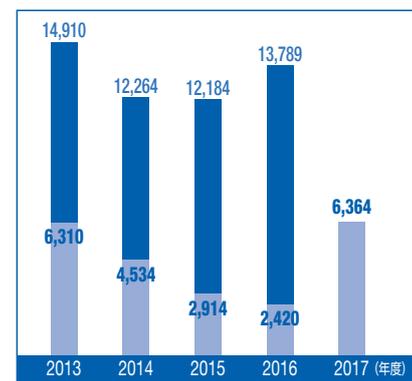
■ 通期
■ 第2四半期累計



純利益

6,364 百万円

■ 通期
■ 第2四半期累計

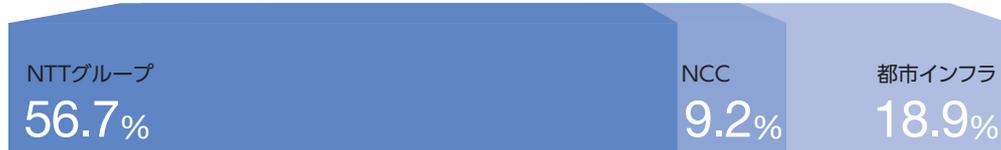




セグメント別売上高構成比

エンジニアリングソリューション

84.8%



システムソリューション

15.2%



エンジニアリングソリューション

受注高	1,397 億円	前年同期比	103%
売上高	1,059 億円	前年同期比	107%

受注高につきましては、NCC事業及び都市インフラ事業が前年同期と比べ増加しました。売上高につきましては、前年度からの豊富な繰越工事の完成及び順調な受注を背景に前年同期と比べ増加しました。

システムソリューション

受注高	214 億円	前年同期比	111%
売上高	190 億円	前年同期比	113%

受注高につきましては、システムインテグレーション (SI) 事業、ネットワークインテグレーション (NI) 事業ともに前年同期と比べ増加しました。売上高につきましては、前年度からの豊富な繰越工事の完成等により前年同期と比べ増加しました。

トピックス | 「第44回技能五輪国際大会」“情報ネットワーク施工”職種で当社の清水義晃選手が見事「金」メダルを獲得!

2017年10月14日～19日までの6日間、アラブ首長国連邦・アブダビで開催された「第44回技能五輪国際大会」において、“情報ネットワーク施工”職種に日本代表として参加した当社の清水義晃選手が金メダルを獲得しました。

同国際大会において、日本の金メダルは当社清水選手と“製造チームチャレンジ”職種の株式会社デンソー、“メカトロニクス”職種のトヨタ紡織株式会社の3個を獲得しました。また当社においては、第38回大会から41回大会までの4大会連続で金メダルを獲得、今回の大会で出場した5大会すべてで金メダルを獲得することができました。

清水選手の金メダル獲得により、当社の情報ネットワーク施工の技術水準が世界の最高峰にあることを証明するとともに、これまでの取り組みが変わらずに成果をあげ、国際的な評価を獲得したものと受け止め、今後もさらなる技術力の強化・向上ならびに優秀な技術者の育成を図り、社会に貢献していきたいと考えています。



トピックス | フィリピン国内に安心・安全かつ高品質の通信インフラを提供

フィリピンの現地法人で当社の連結子会社であるMGエクシオ社では同国最大の通信会社フィリピン・ロング・ディスタンス・テレフォン社 (PLDT社) より2014年5月に受注したマニラ市郊外のラグーナ州およびパタンガス州、2017年1月から新たにマニラ中心のマカティ地区を加え、3地域の一般加入者向け光回線工事および保守を請負っています。

また、光回線の敷設をはじめとする情報通信ネットワーク構築において、高品質の工事を提供するための技術力の強化・向上ならびに人材育成を目的に2017年5月にフィリピンのマニラ近郊にトレーニングセンタを開設しました。

当社では、今後もフィリピン国内に安心・安全かつ品質の高い通信インフラを提供することで、同国のさらなる発展に寄与してまいります。



会社概要 (2017年9月30日現在)

商号 株式会社 協和エクシオ
KYOWA EXEO CORPORATION
設立 1954年(昭和29年)5月17日
資本金 68億8千8百万円
従業員数 連結 8,435名/単独 3,846名
本社 東京都渋谷区渋谷三丁目29番20号
西日本本社 大阪市西区京町堀三丁目6番13号
事業所 支店: 15 営業所: 17

役員 (2017年9月30日現在)

代表取締役社長	小園 文典	取締役	作山 裕樹
代表取締役専務執行役員	太田 勉	取締役	北井久美子
取締役専務執行役員	松坂 吉章	取締役	金澤 一輝
取締役専務執行役員	戸谷 典嗣	常勤監査役	渡邊 晴彦
取締役常務執行役員	大坪 康郎	常勤監査役	滝澤 芳春
取締役常務執行役員	黒澤 友博	監査役	目黒 高三
取締役常務執行役員	光山 由一	監査役	山田 晴彦

株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数 300,000,000株
発行済株式総数 117,812,419株
株主数 9,583名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,865	7.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,363	6.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・住友電気工業 株式会社退職給付信託口)	5,766	6.03
協和エクシオ従業員持株会	4,047	4.23
住友不動産株式会社	2,081	2.17
住友生命保険相互会社	2,000	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・ 三井住友信託退給口	1,834	1.92
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,580	1.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,545	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	1,519	1.59

(注) 当社は、自己株式を22,102千株保有しておりますが、上記の表には含めておりません。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人
及び特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063
<郵便物送付先> 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

<電話照会先> ☎ 0120-782-031

<インターネット
> ホームページURL) [http://www.smtb.jp/personal/agency/
index.html](http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html)

公告の方法 電子公告 (<http://www.exeo.co.jp>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子
公告による公告をすることができない場合は、日本
経済新聞に掲載。

毎年3月末日現在の当社株主名簿に記載または
記録された**1,000株以上保有**の株主様を対
象にクオカードを贈呈いたします。

株主優待 ●保有継続期間3年未満: 1,000円相当
●保有継続期間3年以上: 2,000円相当
※保有継続期間の認定は、3月末日を基準とさせていただきます。
※発送時期は、毎年1回、当社定時株主総会終了後の
6月下旬とさせていただきます。

単元(100株)未満株式の買取・買増請求のご案内について

単元未満株式につきましては、市場で売買することができませんが、
次のいずれかを利用して整理していただくことができます。

【単元未満株式の買取請求】

当社に対して、ご所有の単元未満株式の市場価格による買取を請求
することができます。

【単元未満株式の買増請求】

当社に対して、単元株式に不足する株式数の市場価格による買増し
を請求し、ご所有の単元未満株式と合わせて100株にすることができます。

単元未満株式買取・買増請求の手続につきましては、上記の電話照
会先にお問い合わせください。